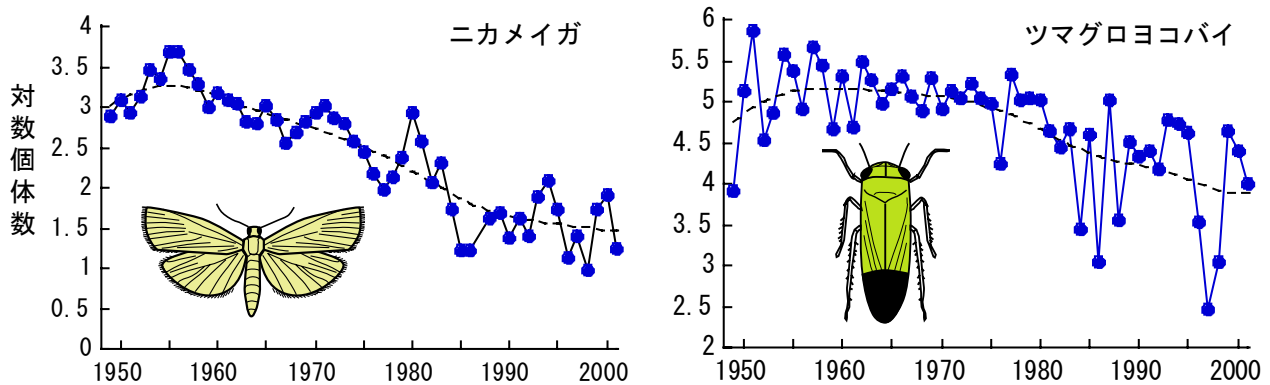


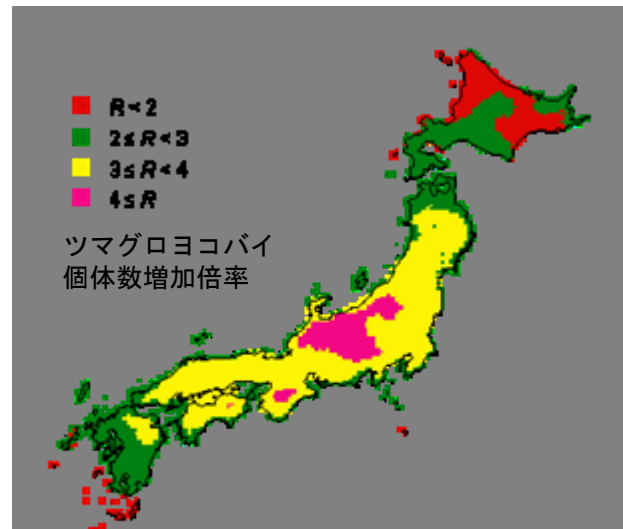
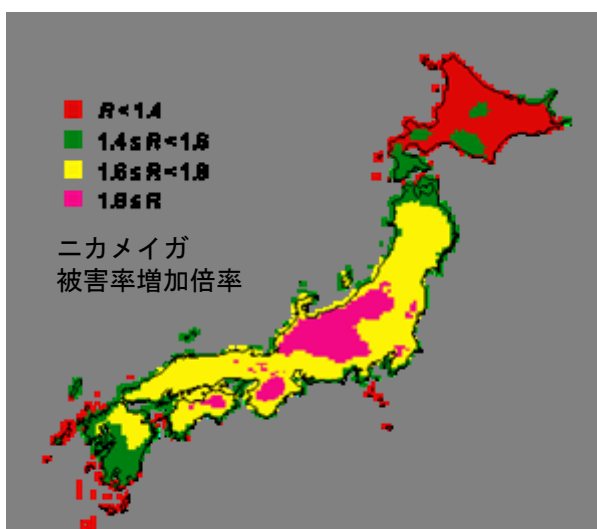
温暖化によるイネ害虫発生量の増加

生物多様性研究領域 山村光司

イネ害虫のニカメイガとツマグロヨコバイは、秋～春の気温が高い年に多発生することが明らかになりました。温暖化が進むと、2050年頃にはニカメイガによるイネ被害が1.6倍程度に増加すると予測されます。



戦後から今日までの約50年間にわたって、害虫の発生量が「誘殺灯」により全国各地で記録されてきました。水戸での時系列データを最新の分析手法（LOWESS平滑化+多変量ARIMAX時系列分析+カルマンフィルター+AIC選択）により分析したところ、ニカメイガとツマグロヨコバイは、秋～春の気温が高い年に多発生していることが明らかになりました。



2050年頃には、ニカメイガによる被害が2000年頃と比べて1.6倍程度に増加すると予測されます。また、ツマグロヨコバイの個体数は3倍程度に増加すると予測されます。

温暖化により、イネ害虫による被害量は潜在的に増加します。この状況に対処するため、事前に防除対策をたてておくことが大切だと考えられます。